

## 指導の実際

### 〔授業展開案4〕「人物紹介パンフレットを作ろう」 (検証授業...5 / 9時)

#### 書くこと

#### 1 単元の指導の実際と手立ての検証 ( )

##### 見通しをもつ場面

〔具体的手立て〕  
事前アンケート  
導入の工夫  
学習計画表

「学習計画表」  
できるだけ自分で考え、書き込めるよう工夫して提示した。

新学習指導要領の指導事項に準拠して、単元に位置付けた言語活動に特化した形でアンケートを作成した。「書くこと」についてはリーフレットの作成にかかわって(実践中の「書く力のチェックシート」に同じ)、「読むこと」については文学的な文章の読みにかかわってそれぞれ10項目の質問を用意した。

アンケートの質問項目に回答することで、生徒は今回の単元で身に付けるべき知識・技能をイメージすることができていた。

ポスターやパンフレット、リーフレットなどの種類の違う作品を示して比べ読みをさせ、作成するリーフレットの形態や特徴などについて学び取らせた。

目的、内容、構成、表現の工夫などの観点に基づいて比べ読みすることでリーフレットについてくわしく知ることができ、作成への意欲をもつことができていた。

学習計画表で学習活動の流れを確認し、学習計画を理解させた。

単元を通して、どんな力を付けるために、いつどんな学習活動をするのかを理解したことで学習の身通しをもつことができていた。

##### 身に付ける場面

〔具体的手立て〕  
スモールステップによる学習活動  
言語活動  
教材等の工夫

「ワークシート記入例」  
生徒が自分たちで見通しをもって活動できるよう、記入例を必要に応じて提示した。

リーフレットを作成する活動を、情報の収集、整理、編集、紙面構成、下書き、清書というように細分化して学習に取り組みさせた。

書くことに苦手意識をもつ生徒に、どこにまずきを感じるのか認識させ、指導することができた。

位置付けた言語活動

#### 「B 書くこと」(2)ア

##### 〔人物紹介パンフレットを作る〕

表現の仕方を工夫してリーフレットを作る活動を行う。

位置付けた言語活動は、目的や条件に応じて、紙面構成や表現を工夫して効果的に書く力を身に付けるのに有効な学習活動であった。

スモールステップによる学習活動に合わせて、ワークシートや教材文プリント、学習の手引き、補助資料などを適宜用いた。

学習活動に必要な情報を1枚にまとめたワークシートは、生徒の思考を導き、主体的な言語活動をさせるのに有効だった。学習活動の参考資料として用意した補助資料や学習の手引きは、生徒が必要に応じて主体的に活用し、言語活動を充実させるのに有効だった。



## 振り返る場面

〔具体的手立て〕  
 交流  
 学習計画表  
 事後アンケート



「相互評価のために作品を見る生徒」

自己評価表，相互評価メモ，評価シートを利用して，作り上げたリーフレットを自己評価させた。さらに，相互評価を付せん紙に書いて交流する活動を行わせた。

チェックリストを評価の観点を基にして，具体的に評価できた。  
 相互評価をすることで，思考が深まっていった。

学習計画表の振り返りの欄に，「単元の学習を終えて身に付けたと思う力とその根拠」と「身に付けた力を活用できそうな場面」を記入させた。身に付けた力を自分で自覚することで，理解が確かなものになったように思う。

事前アンケートと同じ項目で事後アンケートを実施した。

生徒は事前に回答した内容と比較して身に付けた知識・技能を実感することができていた。

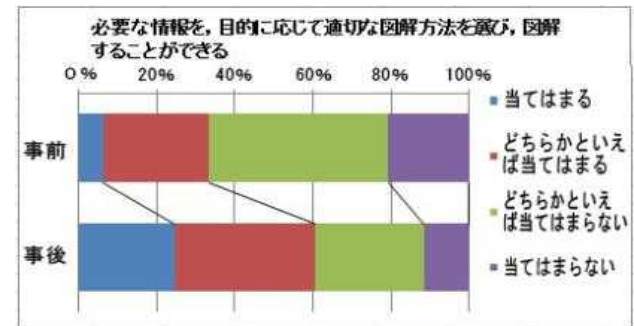
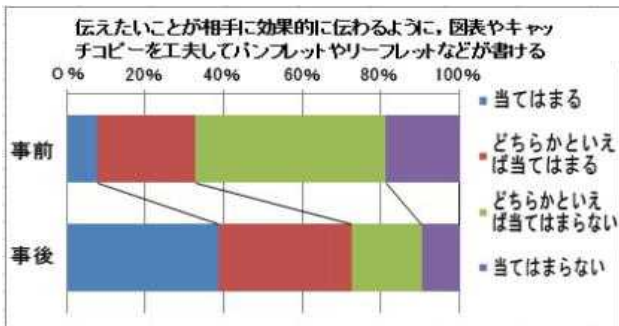
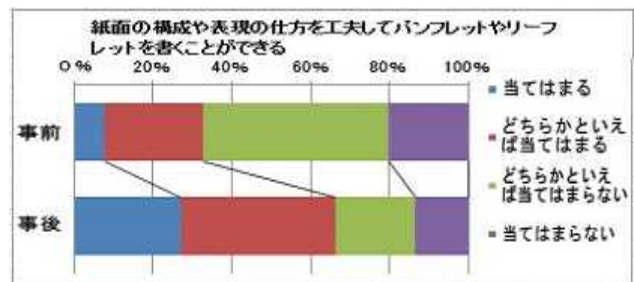
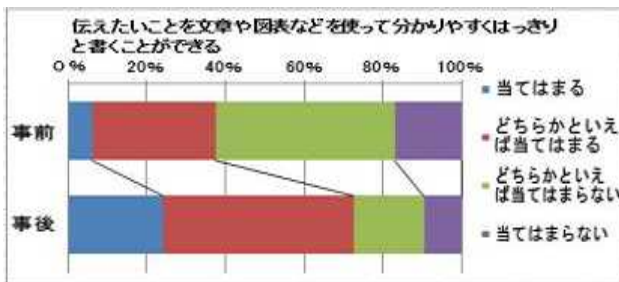
## 2 生徒の変容

### (1) アンケート結果より

「書くこと」について

・すべての項目で，事前よりも事後の方が「～することができる（分かる）」と答える生徒の割合が増えた。本単元のねらいにつながる項目についての変容は以下のとおりである。

（上のグラフが事前，下のグラフが事後のアンケートの集計結果を示している。）

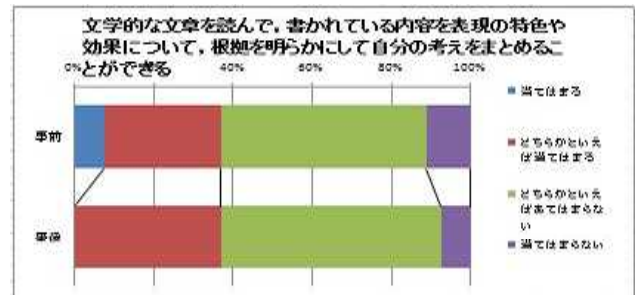
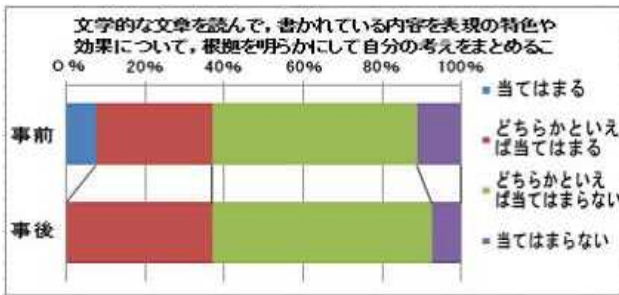
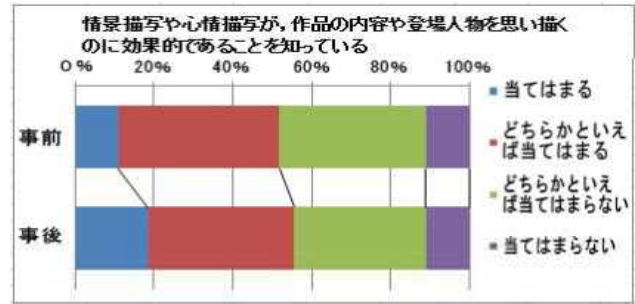
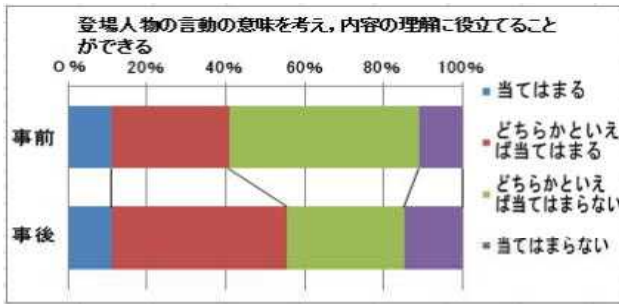


### 〔考察〕

・アンケート結果から，伝えたいことを文章や図表などを使って分かりやすく書く力やパンフレットやリーフレットに関する知識等，単元のねらいにつながる項目において，意識化できた生徒がかなりの割合で増えたことが分かる。本単元の学習を通して，生徒が必要な情報を取り出し，伝えたいことを明確に伝えるために必要な知識・技能を習得したことがうかがえる。

「読むこと」について

- ・「読むこと」の指導事項についても、言語活動を通して身に付くことが期待される項目についてはアンケートを実施した。
- 本単元のねらいにつながる項目についての変容は以下のとおりである。



〔考察〕

- ・言語活動を通して、本単元のねらいとかかわりの深い、表現の特徴や効果といった「書くこと」に関する知識・技能が意識化されたことが分かる。このことから本単元に位置付けた言語活動が有効であったことがうかがえる。

(2) 生徒の感想より(抜粋)

〔書くこと〕

- ・文から語句を抜き出したり、自分でキャッチコピーを考えたりしたのは国語の学力向上のためだと思った。自分なりに楽しむこともできてよかった。
- ・文の構成やキャッチコピーを考えたりする力が付いたと思う。これをやる前と後では、必要な文を探し出したりする力に大きな差があったと思うので、この学習はとてもよかった。
- ・リーフレットとパンフレットの違いが分かってよかったし、書くことも楽しかった。いろいろなデザインを考えるのは難しかったけれど、効果的な紙面構成でとてもおもしろく作ることができたと思う。

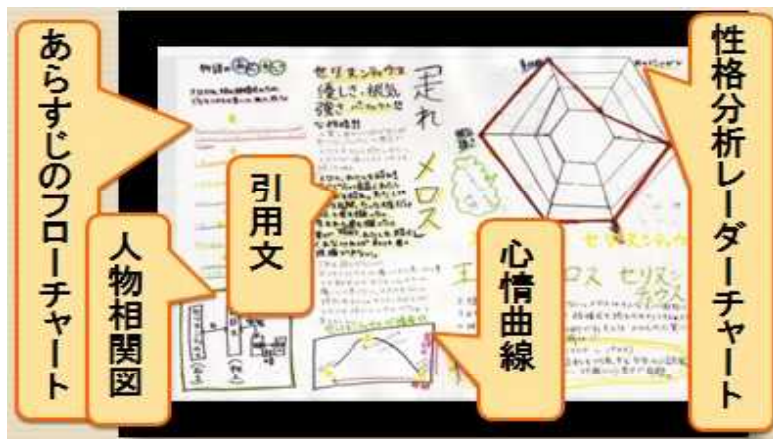
〔読むこと〕

- ・これを書いてみて、よりいっそう「走れメロス」のことが分かった。特にセリヌンティウスの人物像がよく分かった。

(3) 生徒作品より



表紙に「メロスの竹馬の友」と肩書きを入れて人物名を書いたり、キャッチコピーを五七調でまとめたりして読み手の興味を引く工夫がなされている。紙面構成も工夫しており、何をどう書いたらよいか試行錯誤したあとがうかがえる。



フローチャート，人物相関図，引用文，心情曲線，レーダーチャートと  
いうように，授業  
の中で知った図解  
表現を活用して，  
分かりやすく紙面  
を構成しているこ  
とが分かる。

「書くこと」について苦手意識のある生徒ではなかったが，パンフレットやリーフレットの作成については初めての経験であったため，レイアウトを考える段階ではかなり悩んでいた。しかし，授業後の感想に，「何をどう書けばよいか難しくていっぱい考えた。セリヌンティウスについてよく考えられたし，とても勉強になった。」と書いており，活動の中で思考力を働かせ，学習に達成感を感じていることがうかがえる。

### 3 指導者の考察

- ・リーフレット作りの過程で，充実した学習活動に取り組んだ生徒の多くは達成感を得ていたが，作業量の多さに戸惑っている生徒も見受けられたので，学習活動の見直しが今後の課題である。
- ・「読むこと」の指導につなげるためには，人物紹介パンフレットでの交流活動から，「同じ登場人物なのに，人物像が異なっているのはなぜだろうか。」というような新たな課題設定をした上で話し合いをさせるなどして，考えを深めたり広げたりする活動が有効ではなかったかと考える。